一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第99号 発行日:2020.8.22

News No.99 Japan Association of Human Relations August 22, 2020

発 行:日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室 事務局:〒799-2496 愛媛県松山市北条 660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室

E-mail: jahrjimukyoku@gmail.com URL: https://jahr.jp/

[内容] ☆理事長挨拶 ☆学会新体制 ☆順子の映画鑑賞記③ ☆四方山話(別冊「北から、南から」) ☆人間関係学探訪(最終回)

《理事長挨拶》

日本人間関係学会について

理事長 早坂 三郎 (甲子園短期大学学長)



本学会は、人類の進化と 進歩への大きな要因の一 つである「人間関係」について学術的そして学際的・ 実践的にも研究と活動を 行い、会員相互の交流が に社会貢献を図っててあり ことする学術団体であり ます。その学会を構成する

会員の関心及び研究分野は、当然ながら多分野・広 領域に亘っており、また研究者のみならず各界にお ける多様な実務に従事している方々に活動頂いて おります。よりよき人間関係の構築と展開について の研鑽を積もうとする日本人間関係学会の役割と 使命は、これからの AI 化とか超スマート社会にあ って、人間関係のみならず人工知能を備えたポスト ヒューマンとのインターリレーションについても 研究・考察する時代が既に始まっているということ であります。この人間関係への考察と配慮を、学会 のみならず会員の活躍の場で展開され実践と研究 に反映し、研究会や研修会を通して研鑽と活動を一 層深めてまいりたいと存じます。つきましては、本 学会の発展と充実のため会員各位の倍旧のご協力、 そして関係の皆様や団体のご理解とご支援を賜り ますようお願い申し上げます。

しかし、本年度の学会運営については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための三密回避やソーシャルディスタンス、分けてもオンラインによる教育や仕事などは、これまでのような対話や感情の機微に触れ合う機会を乏しくすると共に生活におけるゆとりや潤いなどを奪うばかりではなく、深刻なストレスをもたらしています。加えての地球温暖化

によると考えられる嘗て経験したことのない豪雨 や異常気象、そして南海トラフなどによる巨大地震 の高い確率の予知もなされています。これらは、今 年だけとか来年までのことではなく、地球汚染によ る代償として激化の一途を辿ると予測されます。ま さに人類の進化の過程で襲ってきた気象変化や疫 病と同じように、地球は我々に革命的対応を迫って いるのです。また、政府は新しい生活様式を訴えて いますが、例えば病気などを想定しても日常と非日 常の境界はちょっとした切っ掛けにあることを思 う時、コミュニケーションと人間関係の在り方を考 えることも、この地球規模の危機を乗り越えるため の戦略を立てることといえましょう。よって、本学 会としては、これ迄の研鑽努力の枠に止まらずに、 新しい生活様式や社会的困難の中での人間関係と コミュニケーションについての研究の展開を世に 問うていく使命と責任があると考えます。

最後に、今年度の全国大会についてですが、新型コナウイルス感染拡大は一層深刻さを増しております。何とか年末年始を過ぎるころには開催できるのではとの淡い期待はもう消えてしまいました。そこで本学会として本年度に為すべきこと・出来ることは何かと理事会で検討した結果、学会誌の発刊は当然のことですが、全国大会での口頭発表や実践発表に替わる案として、会員の研究発表機会保持を念頭に研究発表の投稿を会員にお願いし、全国大会研究発表抄録集(仮称)を公表することとします。詳細は後日、本学会 HPにご案内しますので、多くの会員の皆さまからのご投稿をお待ち申し上げております。何より息災にてのご活躍をお祈り申し上げます。

以上





≪学会新体制及び今年度の計画と運営≫

本学会は平成 5(1993) 年 11 月の全国大 会を以て創設されましたが、その2年ほど前 から設立者にして初代会長の茨木俊夫先生の もと、当時の準備委員が丁寧な組織づくりに 邁進され、学会設立のためのいわばプレ研究 会の開催を重ねての誕生でした。ですから産 声を上げたときには、豊かで優しい人間関係 が醸成されていました。まさしく本学会の特 色となる素地がこの時に創られたと考えます。 そして、本学会は人間関係に関心をもたれて いる全ての人に門戸を開き、共に歩んでいこ うとする基本姿勢は不易です。従いまして、 何より明るく楽しい学会員交流のもとに、誠 実に研究及び実践の拡大と充実並びにこれか らの大きな社会の変動を牽引し、時において は支援する学会活動の展開を図ってまいりた いと考えていますので、何より会員の皆様か らのご意見やご提言をお願い申し上げます。

尚、既に新役員体制につきましては本学会 HP に掲載していますが、体制改革の大きなポ イントは、会務運営効率化のための常任理事 の任命を当分控え、当分の間、常任理事会を 休止とすることが承認されたので、意思の疎 通を図る趣旨から今後は理事会による運営に 一元化し、他の多くの組織と同様に監事の出 席を得た理事会とし、収支を踏まえた学会運 営の透明性と効率性の向上に努めてまいりま す。そして、理事会の開催回数は、「原則とし て年間 4 回 | と会則に謳われていますが、次 回総会においてオンライン会議等を追認して 頂き、加えて年間3回以上に改定することを

ご理解願いたいと存じます。

また、事務局長は森千佐子先生に受諾頂き、 釜野鉄平先生にお願いして事務局を聖カタリ ナ大学釜野研究室に移転致しました。

委員会・部会・地区会については、先ず学会 誌編集委員会・研究委員会・研修委員会・広報 委員会・支援活動委員会・交流拡大委員会・倫 理委員会・法人運営委員会・教育部会・エイジ ング部会・東海関西地区会は、これまで通り としますが、新たにシニア学びと活性化プロ ジェクトと語り旅部会を設置しました。しか し、広報誌委員会・女性委員会・国際交流委員 会及び関東地区会・東北地区会は、当面、休会 とし、状況に応じて今後の理事会にて状況を 確認の上、審議することとします。

ただし、人間関係士資格委員会並びに人間 関係士交流委員会につきましては、本学会の 法人定款及び会則に人間関係士資格に関する 事業がその目的と活動内容として明記されて いますので、この事業達成に向けた活動は本 学会必須の活動要件であります。現状の認識 と課題解決、研修システムを含めた要綱の検 証、更にはテキスト・ハンドブックの編集・発 刊に亘る活動について検討・審議し、世の負 託に応えてまいりたいと考えておりますので、 今後とも会員の皆様からの一層のご理解とご 協力を心よりお願い申し上げます。

尚、役員の任期は3年ですが、引き継ぎま した上記役員の残余任期は令和 3 年度の全国 大会総会時までです。但し、認められれば重 任も可です。

以上

順子の映画鑑賞記

第3回 韓国の映画について語ります 橋本順子

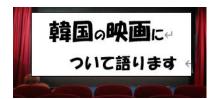
2020年はコロナ感染症の影響もあり、3月中旬までに鑑賞した劇場公開作品は53本のみ。その中で韓国映画はわずか4本観ただけである。そんな本数で韓国映画を語るのは、少々気が引けるのであるが、ポン・ジュノ監督の『パラサイト』が、2019年度、カンヌ国際映画祭で『パルムドール賞』を受賞。そして、外国語初のアカデミー賞作品賞の受賞。まさに韓国映画が世界で認められたこともあり、改めて、韓国映画の変遷を私なりに振り返ってみたいと思う。

2000年を前後して『シュリ』や『猟奇的な彼女』、パク・チャヌク監督の『JSA』や『シルミド』 が公開され、日本でもそこそこヒットした。そして、ポン・ジュノ監督の『殺人の追憶』と続いて、韓 流ブームの中『私の頭の中の消しゴム』は、日本でもかなりヒットした。ペ・ヨンジュン出演の『ス キャンダル』や『四月の雪』は、韓国本国より日本の市場で動員数が多かったようである。

しかしながら韓国映画は、恋愛映画が主流ではない。エンタメ作品の完成度も高い。『新感染ファイナルエクスプレス』はゾンビ映画ではあるが、デティールを積み重ね、重厚な作品に仕上がっている。他にも『10人の泥棒たち』『ベテラン』『悪女』のアクションシーンは見ごたえあった。『神と共に』 2部作は、罪と罰をテーマに描き、ファンタジーで壮大な作品と言える。韓国内で大ヒットした『エクストリームジョブ』 はコメディ劇のアクションエンターティメントと呼べるであろう。とにかく楽しめる。

『スイングキッズ』は、朝鮮戦争下の捕虜収容場が舞台となる。分断された国と同胞、家族を想いながらタップダンスに興じていく。史実ゆえに、ハッピーエンドとはいかずに切なく終える。韓国映画のクオリティの高さは、社会派映画と呼ばれるジャンルのものが証明してくれる。『タクシー運転手 約束は海を越えて』

1980年の光州事件の実話の映画化。ドイツ人ジャーナリスト



を通して、事件が世界に発信させられた。『1987、ある闘いの真実』民主化運動が描かれ、弾圧を受けながら、立ち向かっていく姿は、感動的でもある。実際に起こった通貨危機の裏側を描いた『国家が破産する日』はスリリングでドギュメンタリー映画のよう。釜山の国際市場で実話をもとに描かれた『国際市場で逢いましょう』は社会的メッセージだけではなく、究極な家族愛を描いた。朝鮮語の辞書を作るために奮闘した人々の姿を描いた『マルモイ ことばあつめ』も見逃せない。

韓国映画は、朝鮮王朝の時代劇をはじめとして、南北分断、軍政、民主化などの背景を基に、 様々な映画が製作されている。ジャンルの広さと、芸達者な俳優たちがいることは羨ましい。ここで はまだまだ紹介できていない作品も多くあるが、とにかく面白いので、食わず嫌いな人はぜひ 挑戦を。

【紹介した作品名・韓国公開年】

・『シュリ』1999年・『猟奇的な彼女』2001年・『JSA』2001年・『シルミド』2003年・<u>『殺人の追憶』</u>2003年(ポン・ジュノ監督作品、お勧めです)・『スキャンダル』2003年・『私の頭の中の消しゴム』2004年・『四月の雪』2005年・『10人の泥棒たち』2012年・『国際市場で逢いましょう』2014年・『ベテラン』2015年・『タクシー運転手』2017年・『1987、ある闘いの真実』2017年・『悪女』2017年・『神と共に第一章』2017年・『神と共に第二章』2018年・『コングキッズ』2018年・『エクストリームジョブ』2019年・『マルモイ ことばあつめ』2019年

「なぜ人を殺してはいけないのかという問い」について

加藤誠之(高知大学)

四半世紀ほど前にも「なぜ人を殺してはいけないのか」と問うた若者がいた。これについては、大江健三郎氏のこの答えが最も正しいと思う。

私はむしろ、この質問に問題があると思う。まともな子供なら、そういう問いかけを口にすることを恥じるものだ。なぜなら、性格の良し悪しとか、頭の鋭さとかは無関係に、子どもは幼いなりに固有の誇りを持っているから。そのようにいう根拠を示せといわれるなら、私は戦時の幼少年時についての記憶や、知的な障害児と健常な子どもを育てた家庭での観察にたって知っていると答えたい。/人を殺さないということ自体に意味がある。どうしてと問うのは、その直観にさからう無意味な行為で、誇りのある人間のすることじゃないと子どもは思っているだろう。こういう言葉こそ使わないにしても。そして人生の月日をかさねることは、最初の直観を経験によって充実させてゆくことだったと、大人ならばしみじみと思い当たる日があるものだ(朝日新聞 1997.11.30 朝刊)。



哲学的な理性は、日常の自明性(当たり前)を問う。

しかし、この問いは、やがて日常の自明性を支えており、これ以上問い得ない現事実としての自明性に行き当たる。

現事実としての自明性は理性の根拠であり、これを疑ってしまえば理性自体の崩壊を招く。

理性は万能ではない。何でも疑えるわけではないのである。

確かに、なぜ人を殺してはいけないのかという問いに答えはない。

例えば、我が国の刑法は、人を殺してはならないとは書いていない。人を殺せば一定の刑罰を科すと 書いてあるだけである。

宗教も人を殺してはならないと説いている。しかし、宗教の教えは、信徒以外の者にとっては無意味であろう。

現代の日本でも、人は実際に殺されている。特に、我が国は死刑存置国であり、合法的な殺人も存在するのである。

しかし、人類は長いあいだ、現実に人が殺される社会を生きてきた。その中で、人を殺すことによっては誰も幸せにはならないことを経験してきたのではないだろうか。

その経験的な知を面白半分で疑うことは「誇りのある人間のすることじゃない」。

実際、この問いについて議論していくと「人間は誰でも殺されたくない」→「全員がそう思っている保証はどこにある」、「人間はそれ自体として尊く価値のある存在である」→「そんなこと誰が保証してくれるんだ」、「誰でも誰かにとって大事な存在だ」→「誰にも必要と思われていない人間だっているだろう」 …と、いかなる論拠でも否定できる。

しかし、こういうのを本来的な意味でのニヒリズムというのである。こうやって、ありとあらゆる論拠を否定した果てに何が残るのであろうか。

(2020年7月9日 Facebookより)

ぼくが思う「幸せについて」

鈴木満(コーチング研修会社 ドリームフィールド)

本日はオンライン「コーチング実践会」に「幸せ体質プログラム講座」。

テーマは、「助けてって言えるとはいったいどういうことなの?」と、ちょっと下世話なのですが、ぼくが 思う「幸せについて」でした。

* * *

参考図書にした本のなかに植島啓司先生の『きみと地球を幸せにする方法』(集英社インターナショナル、2015年刊)があります。26~27頁参照には以下のことが書かれています。

* * *



『ピーコ語録』には次のような言葉も収録されている。「お金に関しては、 私たちダメよね。だって、お金をたくさんもっていることより、気が置けない人 と気持ちよく過ごすことのほうがずっと大切だもの」。(中略)

ブータンを訪れたときにも「もらうよりもあげるほうがはるかにうれしい」という言葉をしばしば聞いた。(中略)「ブータンではね、たとえばプレゼントをもらうとき、うれしいでしょ、でも、でもね、あげるとき、自分の心はもっともっと幸せになっていますよ。(中略)ブータンの王様はどうして田舎に行って人々を助けているんですか。それによって自分が幸せになるからなんですね。だからブータン人は知らない人にも『ちょっと助けてもらえますか』と言います。お互いさまですから。」

* * *

どうですか、シビれませんか? ぼくだけかしら?

* * *

巻末のあとがきには、植島先生が考える幸せについて書かれています。(184頁参照)

幸せとはなにより心に不安のない状態だからです。幸せであるための大切な心がまえとは、「自分にはやりたいことがある」「楽しい仲間に恵まれている」「人生に未練を残さないように生きている」というようなシンプルな言葉に集約されそうに思います。

* * *

どうですか? シビれるのはぼくだけかしら??

* * *

どこかの誰かもいっていましたが、幸せとは実体ではなくて状態である。だから、"なる"ものではなく て"ある"ものである。

なにかになろうとしたところで、そうなれるわけでもなく、"それ"を手にできるわけでもない。すでにあるものをいかに感じるか。 状態とは感じることでのみ感じることができることである。

* * *

助けることによって、助けることができる自分は幸せであることを体験することができることが含まれているのが助けるということである。

実は、助けてというメッセージには、あなたには誰かを幸せにできる能力があるのですよという祝福 のメッセージが同時に織り込まれている。

むしろ助けることによって、助ける方はあなたによって助けられているのかもしれない。

* * *

なんだかよくわからないけれども、本日もお付き合いいただきありがとうございました。

(2020年7月26日 Facebookより)

最終回

人間関係学探訪シリーズ(5)

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけでの集まりでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A 形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズの意図・ねらいです。このシリーズは今回で最終回。最終第15回では、本学会の広報委員長を務める谷川和昭先生に語っていただきました。



谷川 和昭氏

関西福祉大学社会福祉学部 教授。社会福祉士。人間関係士。 学部では、人間関係学、地域福祉と包括的支援体制(21年度~)、ソーシャル ワークの基盤と専門職などの科目を担当。大学院研究科では地域福祉研究特講、 地域福祉研究演習、社会福祉特別研究を担当。本学会では広報委員長として 副委員長の永野典詞理事と学会ニュース編集に共に切り盛りしてきた。 日本福祉図書文献学会理事・事務局長。日本看護福祉学会指名理事。

永野(広報委員会): お久しぶりです。 谷川先生。 本日はよろしくお願いいたします。

谷川: いつもお世話になっております。こちらこ そよろしくお願いいたします。

永野:先生に初めてお会いしたのは12年ほど前、 埼玉県の文教大学で開催された大会の懇親会で 二次会の時だった思いますが、どうでしょう。

谷川:懐かしい話です。永野先生はじめ素敵な先生方と時間を共にして議論でき刺激的でした。

永野:その後、5年前の2015年に私が大会長、 谷川先生が翌年の大会長を務められました。

谷川:あの頃は先生には実務的な面でお世話になり、大会前日にも応援に駆けつけてくださって、今も感謝しております。「未来を磨く人間関係力の再生へ」を大会テーマに掲げてよかったです。 永野:谷川先生ならではのテーマ設定でしたね。

先生の研究のルーツについてはいかがですか? 谷川:私は元々文学部社会学科で、当時出会った 三友雅夫教授の指導がすべてでした。社会福祉 (福祉政策、運営管理)、看護、公衆衛生、メン タルヘルス、被服学、家政学、色彩学など、実に 多彩な研究にタッチする機会がありました。で、 そこに共通するものは何だろうと、これは後付け の議論なのかもしれませんが、"人間関係"だと いうところに行き着いた、と考えております。

永野:確か谷川先生は以前、本ニュースの「北から南から」で自己紹介されていたと思いますが、

大学等でも授業をされておられますね。

谷川:はい。実は 2004 年度に一度白羽の矢をいただいて、そのときはお断りしていたのですが、2005 年度から縁あって他学で人間関係論を担当することになりました。看護学生が対象ですけれども、母や親族の多くが看護師をやっていたこと、大学院時代の院生の過半数が看護師さんだったことが、この授業科目を担当するきっかけにしてくれたのかもしれないと思っております。現在の本務校でも 2014 年度から当時の看護学部長のお達しをいただき、人間関係学を担当しています。永野:看護学部との接点がおありだったのですね。そう言えば、今年、谷川先生は第 33 回日本看護福祉学会学術大会の大会長でもありました。

谷川:そうなんです。大会テーマは「人間関係の和で紡ぐ看護福祉」として準備を進めていました。私、日本人間関係学会には2008年度入会ですが、日本看護福祉学会は2002年度に入会、ちなみに日本社会福祉学会は大学院入学と同時の1992年でしたが、看護も社会福祉も、同じ「人や環境を対象としたサービス」に係る学問ですので、看護学からは学会の入会以前、それこそ院生の頃から良い刺激を受けていました。私にはできることはこれといってないのですが、何か学問の恩返しがしたいと思い、大会長を引き受けたのですが…。永野:新型コロナウイルスの感染拡大ですね。

谷川: ええ、そうなんです。 大会は7月11・12

日に予定していたのですが、4 月の役員会で現地 開催については中止することが決定しました。

永野: すべて中止になったのですか?

谷川:全面中止ということではなく、基調講演、シンポジウム、交流集会、そして何より研究発表登録者の原稿は春先までにすべて揃って審査も終えておりましたので、抄録集を編集発行しての「誌上発表」という形で発表成立とみなす方法をとりました。おかげさまで30件成立しました。永野:とても大変だったですね、運営準備。

谷川:ええ、現在も8月末まで抄録集の販売受付をおこなっていますし、いくつかの対応をしていて、残務処理が10月頃までかかる予定です。

永野: 私も大会長を数度経験しているから分かりますが、なかなか気が抜けませんね。それでは、話題を変えまして、つぎに学会入会のきっかけについて教えていただけますか?

谷川:京都ノートルダム女子大学の三好明夫先生、 自分にとって兄貴分的な存在の方でありますが、 2007 年にお電話をいただきました。それが最初 の接点です。具体的には日本人間関係学会に関西 地区の研究会があるとのことで、三好先生から 「福祉の心」について研究講演できないか打診を 受けたのです。この学会や研究会の存在を知った のはそのときが初めてです。ご依頼をいただき、 本当に自分のような者でよいのだろうかと思っ たのですが、乗りかかった船です。当時、芦屋大 学のサテライトキャンパスが駅近くにあったの ですが、そこの会場内で20名ほどの会員の先生 方を前に1時間ほどお話をさせていただきました。 その後、学会事務局に問合せ、大会要旨集などの サンプルを送っていただき、自分にも勉強になる と考え、入会を決めさせていただきました。

永野: もともとは研究会が始まりだったのですね。 入会されて、その後はいかがでしたか。

谷川:そうですね。地区会では、現在の日本社会福祉士会副会長になられた中島康晴氏の講演を三好先生の大学で拝聴するお誘いをいただいたりして、実際に生で間近でお話をうかがって感激しました。また、2012 年 9 月には東日本大震災の被災地支援に赴き、シンポジウムの司会もやらせていただきました。現地で買い物、食事をすることも支援の形のひとつであるという良い勉強をさせていただきました。どれも忘れられません。永野:今のお仕事について、とくにコロナ禍ではありますが、教育研究面はいかがでしょうか。

谷川:そうですね。教育研究ではとくに授業の様態が4月以降、様変わりしてしまいましたね。

永野: ええ、確かにがらっと変わりました。

谷川:一時期、ゼミを中心として6月2週目から対面授業を数回行えたのですが、感染再拡大の影響もあり、7月途中でオンラインに戻りました。 先生方どなたでもそうですが、平常のときの3~7倍ぐらい時間と労力がかかっているようです。

永野:体調管理も大事になってきますね。

谷川: 前期後半以降は、もう目がショボショボで して、だいぶ目薬のお世話になりました。

永野: そのような非常時で、お疲れでもあると思いますが、何か良いことはございましたか?

谷川:対面は数少なかったですが、授業では学生と一緒になって切磋琢磨できたと実感できたことでしょうか。生演奏で歌も聴いてもらいました。 永野:学生に生歌披露? それは素敵ですね。

谷川:恐縮です(笑)。本学会は「人間関係力」 という専門性を磨くのがねらいと考えています。 その特性は、①媒介力、②創造・発展力、③回復・ 調整•再生力、④連携•協働力、⑤全体認識•洞 察力、⑥他者受容・共感力、⑦自己受容力、とい うものになりますが、よりよい人間関係を構築す ることを目指すための指標と言ってよいかもし れません。私は人間関係学という授業科目以外の 担当授業でも、常にこの人間関係力を意識してき たように思います。人間関係学という学問は今あ る人間関係を大切にしつつも、その人間関係をよ り創造的に広げていく役割を担います。この創造 的活動には互いに他を尊重し、他の人々とともに 協働していくことが重要となります。それには、 「共に考え」「共に創る」在り方が望まれるわけ です。このような自らの能力と資質の向上、つま り人間関係力を向上させる一助となるよう、良い 授業にしたい思いがあります。まだ試験や成績評 価が待っていますが、切磋琢磨させていただけて いることに、本当に心から感謝したいです。

永野:現代社会では、様々な場面で人と人との出会いを育み、繋ぎ、よりよい人間関係の構築のために適切な手助けができる専門的な理論と方法を身につけた人が必要となっています。

谷川:まさしくそのとおりです。人間関係、まだまだ続きます。これで終わりではありません。 永野:谷川先生、本日は貴重なお話をお聞かせいただき本当にどうもありがとうございました。

(インタビュー:2020年7月25日)

事務局だより

【会員動向】(2019年9月18日~2020年8月20日)

2020年8月20日現在

会員160名 (正会員:131名 一般会員:11名 準会員:18名 賛助会員:0)

〈入会者〉 正会員 3名 ※敬称略

•中村 美千代 •伊賀 吉郎 •武藤 大司

準会員 1名 ※敬称略

•工藤 寛也

〈退会者〉 81名(正会員:55名 一般会員:11名 準会員:13名 賛助会員:2名)

【年会費納入のお願い】

本学会は会計年度を10月1日~9月30日としております。10月に入りましたら、2020年度会費の請求をさせていただきます。会費納入について、ご理解とご協力をお願い致します。

なお、2019年度会費のお支払いがお済みでない方は、年度中のお支払いをよろしくお願いいた します。

【第28回全国大会】

第28回全国大会は、新型コロナウイルス(COVID-19) 感染拡大の中、関係各位の健康と安全面を考慮し、開催方法を誌上発表とすることといたしました。誌上発表とは、抄録集に掲載することで発表の代わりとする方法です。

申込期間、参加費(掲載費)、抄録の書式等につきましては、今月中(8月)、学会ホームページ 等でお知らせいたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

クローズアップ・語り旅部会 一 語り旅部会の再開について 一

日本人間関係学会は、1993年(平成5年)に茨木俊夫先生(故人)により創設されました。 茨木先生は、設立当初から学会員の交流活動が大事と考えられて、先生ご自身が先頭に立ち、「語り旅」と名付けて活動を続け、会員の親睦と会員確保の機会に様々な実践をされました。 設立当時は、学会員500名を超える様相にあり、その後、紆余曲折を経て会員の減少もあり、語り旅部会は参加者不足や担当者不在が続いてやむなく休会となりました。

語り旅部会 佐々木かなこ

しかし、今般、早坂先生が新理事長に就任され、創設者の理念に基づいて新たな船出をする との意向に沿い、語り旅部会を再開することに しました。改めて会員相互の親睦を図り、さら に様々な活動を通して未入会員の方々に、本学

会への関心を持っていただく機会にしたいと考えております。ご関心のある方はQRまたはHPの「部会」をご覧くだされば幸いです。



(編集後記)

周知のとおり、昨年12月から学会体制について再構築が始まっています。その最中に、新型コロナの影響を本会も大きく受けました。前執行部から現執行部体制への移行準備には思わぬ時間と労力がかかっておりますが、着々と進められています。ところで、先般の理事会では、今後のニュース発行回数をこれまでの年3回から年2回とすることが正式に決定しました。8月と2月の発行を目指していますが、次号は記念となる第100号です。多くの会員の皆様の近況など、特集を組めたらと思っております。ご協力をお願いいたします。(谷川和昭)